



犯罪からの子どもの安全 プロジェクト関係者インタビュー

携帯電話、インターネット問題の怖さを
子どもを見守る親の立場から伝えたい

いつでも手軽にアクセスできる携帯電話からのインターネット利用は、便利な反面、子どもたちを有害情報やネットいじめなどの危険に近づけてしまう場合もあります。ところが、こうしたネット問題の怖さを、多くの親たちが認識していないため、子どもの携帯電話やインターネット利用を上手にコントロールできていないのが実情です。JST 社会技術研究開発事業・2008 年度採択研究開発プロジェクト「子どものネット遊び場の危険回避、予防システムの開発（代表者 下田博次 以下、下田プロジェクト）」は、子どもの携帯電話やゲーム機、パソコンからのインターネット利用について見守り、注意・指導できる能力を持った人材の養成と、そうした人たちの市民活動を支援する仕組みづくりを進めています。今回紹介する「ぐんま子どもセーフネット活動委員会」は、下田プロジェクトと連携を図りながら、子どもを見守る親や教師などの目線に立って、身近に潜むネット問題を調査し、その危険を広く伝えていく市民活動を続けています。活動に参加するインストラクター勉強会でお話をうかがいました。



ぐんま子どもセーフネット活動委員会・西部地区の勉強会に集まった
市民インストラクターのみなさん

ぐんま子どもセーフネット活動委員会

2005 年、群馬県青少年こども課、NPO 法人青少年メディア研究協会により、子どもの携帯電話などからのインターネット利用について見守り、指導できる人材を養成するため「群馬県子どもセーフネットインストラクター養成講座」が開始され、翌 2006 年に第 1 期 15 名の市民インストラクターが養成されました。この市民インストラクターが集まり、2007 年に任意団体として「ぐんま子どもセーフネット活動委員会」

が組織化されました。同活動委員会は、群馬県認定の市民インストラクターとして、市町村教育委員会が小中学校で実施する PTA セミナーで講演を行う（2009 年度は 140 回の講演を担当）ほか、シンポジウムの開催（毎年 1 回）や市民への地域勉強会を実施するなどの活動を通して、ネット問題の危険から子どもを守るための啓発活動に取り組んでいます。

各支部の勉強会で、
ネット問題の危険を伝える技術をみがく

ぐんま子どもセーフネット活動委員会には、現在 61 名のインストラクターがボランティアで参加しています。インストラクターの大きな役割のひとつは、子どもたちの携帯電話やインターネット利用に関して起きているさまざまな問題を多くの人たちに伝え、子どもたちの被害を減らすとともに、保護者や子どもたちに携帯電話やインターネットとの接し方を深く考えてもらうための啓発活動を行うことで



セミナーで話すコンテンツの選び方や、説明の仕方などについても、さまざまな検討が行われる。

す。そのため、自分たちで地道に調査活動を行いながら、小・中学校で開かれる PTA セミナーなどで、その成果を発表する取り組みを続けています。また、インストラクターの養成やその技術の向上をめざして、同委員会では、1、2 カ月に 1 度、定例会を開くとともに、毎月 1 回、東部・北部・西部・中毛地区の 4 つの地域に分かれて、勉強会を実施しています。

2010 年 7 月の日曜日の午後に行われた西部支部の勉強会には、同委員会の委員長を務める飯塚秀伯さんをはじめ、8 名のインストラクターが集まり、講師として話をする際のプレゼンテーションのコツや、コンテンツの選び方などについて話し合いが行われました。

「セミナーの最初に、携帯電話のゲームサイトがすべて無料だと思っている人に手を挙げてもらいました。テレビのコマーシャルなどの影響もあってか、多くの人が手を挙げます。すべてが無料ではないことを理解している人はごくわずかで、そのことを説明すると、多く参加者が驚いて、話に耳を傾けてくれました」とインストラクターの一人が自らの体験を紹介。「最初から難しい話をしてしまうと、誰も聞いてくれませんか。手を挙げてもらうのも、よい方法ですね」と飯塚さんは、話を聞く人たちの心をつかむコツについて説明、これを受けて別のインストラクターは、「携帯電話利用と成績の相関なども、親を引きつけるテーマのひとつで、興味を持ってくれます」と自分の経験を話しました。



参加者の何人かが交代で講師役となり、それぞれのやり方でコンテンツを説明する。



資料をどのように生かして何を伝えるか、各インストラクターの腕の見せどころ。

多くの親たちに家庭教育の大切さを知ってほしい

インストラクターは、子どもを持つ保護者をはじめ、教育関係者、消費者問題や青少年にかかわる仕事に携わる人たちなど、立場はさまざまです。しかし誰もが、携帯電話やゲーム機から、いとも簡単に子どもたちが見ず知らずの人々とつながりを持ってしまったり、有害・違法な情報を手に入れることができることに危機感を抱いており、子どもを持つ親にその現実を知ってもらいたいと、切実に願っています。勉強会では、話し合いだけでなく、有害・違法なインターネットのコンテンツの解説やプレゼンテーションを実際に行い、講演内容や資料の効果的な活用方法などについて熱心な議論が交わされる場面もありました。

あるインストラクターは、「アダルトサイトやゲームサイトなど、有害なコンテンツやトラブルにつながる恐れのあるコンテンツの事例、問題への対処の仕方だけでなく、最後は家庭教育の大切さについて話すようにしています。子どもが危険なサイトに接続したときに踏みとどまれるかどうかは、毎日の生活の中で、親と子の話し合いや声かけができていのかどうかにかかっていると思うのです。フィルタリングなどの対処療法も大事ですが、もっと大切なことがあることを知ってもらいたい」と話しました。この意見に、集まったインストラクター全員がうなずいていました。

勉強会は、予定していた 2 時間を超えて 3 時間近くに及び、その後もそれぞれが集めたデータやその利用についての情報交換が続きました。

IT の専門家ではなく、 子どもを見守るプロとして活動していきたい

飯塚秀伯（ぐんま子どもセーフネット活動委員会 委員長）

青少年メディア研究協会の下田博次理事長の勉強会に出入りするようになったのは、7 年ほど前の 2003 年、娘が小学 3 年生になったと



群馬県高崎市在住。蓮花院（真言宗）、副住職。2006 年、群馬県子どもセーフネットインストラクター（第 1 期）。2007 年、ぐんま子どもセーフネット活動委員会を組織し、委員長を務める。

きに PTA 会長を引き受け、子どもに関係するいろいろなことに興味を持ったことがきっかけでした。当時は、自分の娘にも早いうちに携帯電話を持たせた方がよいだろうと考えていたのですが、下田さんのお話を聞くうちに、「これはただごとではない。こんな恐ろしいものを子どもに持たせてよいのだろうか」と強く実感し、このまま放っておくわけにはいかないという気持ちから活動を続けてきました。そのころ、すでに下田さんの頭の中には、この問題を広く伝えていくための市民インストラクター制度が必要だというお考えがあり、群馬県の青少年子ども課と話をし、2005 年に市民インストラクターの養成が開始されました。第 1 期は 15 名が認定を受け、現在、第 5 期までで 61 名になりました。

私たちは、もちろん IT やインターネットのプロではありませんが、常に子どもたちの身近にいて、子どもたちを心配するプロであり、子どもたちを守り、健全な成長を願うプロなのだという自負心はあります。ですから、みなさんにお話しするときも、IT の専門家のような言葉を使う必要はなく、保護者の立場から、自分自身の言葉でネット問題を伝えていけばよいのだと思っています。

私たちのいちばんの強みは、何のしがらみもないということです。行政はグレーゾーンと分かっている企業活動の批判は難しいですし、企業自身も基本的には営利活動を度外視して何かを語ることはできません。しかし、私たちは市民活動ですから、何ものにも縛られることなく、ただ子どもを守りたいという立場からしっかりと調査を行い、ネット問題について自由に発言することができるとしています。

自分たちで調査したことを、自信を持って伝えたい

子どもたちに携帯電話を持たせたり、インターネットを使わせたりする場合、親はそれなりの覚悟を持たなければいけないということを、多くの人たちに伝えたいですね。親たちは、「いつでも連絡がとれるように」と、子どもの安全や安心のために携帯電話を持たせるわけですが、実際は携帯電話やインターネットを使うことで、親の知らないうちにどんどん外の世界とつながってしまいます。

私たちは調査のために、実際にいくつかのゲームサイトに登録してみたり、掲示板に書き込みをしたりしてきました。多くの場合、子どもが危険に遭遇するのは、インターネットに双方向型のコンタクト機能があるためですが、そのあまりにも強力なコンタクト機能には、本当に驚かされます。子どもたちを誘惑するような情報が、次々に提供されるのです。一言でいえば、子どもたちの周りに、悪意を持った大人たちが群がっているような状態です。特に携帯電話だと、親の頭ごしにそうしたやりとりが行われる可能性があるわけです。子どもの安全を願って持たせたはずの携帯電話が、全く逆の状態になる場合があることを、親は知っておかなければいけないと思います。

もちろん、私たちは携帯電話やインターネットを否定しているわけではありません。ただ、そこに潜んでいる危険をしっかりと理解し、子どもと話をし、チェックして見守りながら、段階的に携帯電話やインターネットを利用させていくことが大切だと思います。

とはいえ、有害情報、ネット詐欺、援助交際、ネットいじめなど、携帯電話やインターネットの問題は非常に幅が広く、問題がたくさんあり過ぎて、私たちだけでなく、専門家でも収拾がつかないような状況です。さらに、どんどん新しい問題が出てくるため、それらに追いついていくのも大変です。最近は携帯電話だけでなく、ゲーム機からできるインターネットも心配されています。またツイッターなども、新たないじめにつながる要素が見受けられます。子どもにとって有害とされる情報を遮断するフィルタリング機能や、モバイルコンテンツ審査・運用監視機構（EMA）による審査なども実施されていますが、まだまだ十分とはいえないと、私たちは感じています。

専門家集団である青少年メディア研究協会、そこで進められている下田プロジェクトとは、今後もさらに連携を深めていきたいと考えています。そして、こうした新しい動きや専門性の高い情報についての指導や、市民インストラクターが使えるコンテンツの提供などを、ぜひお願いしたいと思っています。その一方で、この問題はたくさんの方が関わり、いろいろな視点で見ることによって、より多くの問題が見えてきます。ですから、保護者や子どもたちに近い立場にいる私たちだからこそ提供できる情報もあると思っています。そうしたお互いの連携を効果的に進めていくことが、これからはより重要になってくるのではないのでしょうか。また、一方では、現場の声をより大きな声にして社会に発信していくために、全国の保護者やネット問題に取り組んでいる人たちの声をまとめていくことも必要だと感じています。そのため、今、全国の市民インストラクターとの交流や、全国市民会議の実施を進めているところです。

ネット問題を市民の目線で伝えていきたい



伊藤 洋一

**群馬県子どもセーフネット
インストラクター
群馬県教育委員会勤務**

高崎市在住。県の教育委員会に勤務する中で、子どもと携帯電話やインターネットの問題と出会い、自分自身の勉強を兼ねて2年前から市民インストラクターの活動に参加。現在は、子どもを持つ一人の親として、市民の目線でこの問題を伝えていきたいと考えている。

「

仕事柄、いじめ問題などを含めた人権教育に高い関心を持っており、以前から子どものネット問題を何とかしなければいけないという思いがありました。

携帯電話やインターネットの危険性を、私たち親世代はあまりに知らなさすぎます。親と子どもの認識に大きなギャップがあるのです。そのギャップを埋めていくことが、私たち市民インストラクターの役割であり、そのために何をどのように伝えていけばよいかを、常に考えるようにしています。

講師としてお話しするとき、いつも大事にしているのは市民の視点、そして自分の娘や息子を守りたいと願う親の視点です。自分が親として子どもをどのように導いていけばいいのかを一緒に考えていきたいと思っています。

私が特に伝えたいのは、家庭教育の大切さです。親がしっかりと子どもを見て、親子のコミュニケーションがちゃんと取れていれば、ネット問題もそれほど心配ないように感じています。基本的に子どもは未熟で、判断力も十分とはいえません。親はそんな子どもを健全に育て上げる責務があります。しっかり子どもを見守ってほしいということを伝えていきたいですね。

いちばんの課題は、ネット問題に危機意識を持っていない人たちに、どうやって伝えていけばよいのかということです。PTA セミナーなどに集まってくださる方々は、まだまだ少数で、本当に話を聞いてほしい、子どものネット問題に関心な親御さんは、なかなかセミナーに来ていただけないというのが実情です。かつて富岡市のある小学校で、就学時検診のときに新入生の保護者全員の前でお話をさせていただいたことがあります。そうした機会がもっと増えてくれるとよいと思います。

」

親が知らぬまま危険に巻き込まれる子どもたち



高井 小枝子

**群馬県子どもセーフネット
インストラクター
富岡市消費生活センター勤務**

藤岡市在住。消費生活センターの相談員として、これまで数多くの子どもの携帯電話トラブルの相談を受けてきたことから、この問題に関心を持ち、問題を減らすための啓発活動の重要性を実感し、市民インストラクターの活動に参加。

「

消費生活センターには「無料だと思って利用したら、高額な料金を請求された」というインターネットの金銭トラブルに関する相談が、数多く寄せられます。ゲームサイトなどで、子どもがそうしたトラブルに遭うケースも少なくありません。大人たちがつくったお金儲けのシステムに子どもが巻き込まれているように感じて、とても気にかかっています。さらにサイト使用料などの料金徴収の方法にも、いろいろと問題が潜んでいます。こうしたインターネットの世界を正しく理解してもらい、どのように向き合えばよいのか、みなさんに伝えていきたいと思っています。

携帯電話を子どもに持たせるかどうか、インターネットをどのように使わせるか、その答えはひとつではありません。子どもの成長なども考慮しながら、どうするのがいちばんよいかを探してほしいと思います。個人的には、できれば子どもに人生の貴重な時間を携帯電話やメールに縛られずに生活してもらいたいという思いがありますが、子どもには、また別の考えがあるに違いありません。とにかく親と子が常に向き合って話をしながら、よい方法を見つけていくことが大事です。

ぐんま子どもセーフネット活動委員会は、まさに草の根の市民活動ですが、参加している方々がものすごく熱心で、自分ももっと頑張らなければいけないという気持ちになります。集まる情報やみなさんの考え方は、自分の仕事にも役に立っています。

インストラクターとしての経験はまだ浅く、勉強すべきことも多いのですが、それでも先日PTAセミナーでお話をさせていただいたところ、ネット問題の怖さにみなさん驚いておられました。私たちのこうした活動によってトラブルが減少し、子どもたちが危険な目にあわずに済むならば、それが何よりの喜びです。

」

インターネットには子どもが遊ぶには危険すぎる場所も



小宮陽子

群馬県子どもセーフネット
インストラクター
小学校職員

沼田市在住。小学校の相談員として子どもたちを取り巻く問題に関心が深い。PTA セミナーに参加して子どものネット問題を知り、この問題の子どもへの危険性やリスクの大きさを実感し、2年前から市民インストラクターの活動に参加する。

「

私は調査を主に担当しています。実際にゲームサイトなどに登録したりして、どんな問題が起きているのかを調査します。

活動に参加するまでは、子どもたちが遊ぶネットの世界というものがまるで分かりませんでした。最初は、まるでジャングルに迷い込んだような状態でしたが、そのうちに、この世界で子どもたちが、全く知らない人たちと簡単につながっていく様子が見えてきて、ものすごく大きな危険を感じました。例えば、調査の一環として、ゲームサイトや掲示板などに「中学生・女子」として登録しておく、たちまち10人以上の成人男性から誘いのメールが来たりすることもあります。また、掲示板や伝言板などの内容を見ると、個人情報や流されていたり、個人の悪口が書き並べられていたり、卑猥な言葉なども書き込まれています。子どもたちが平然とそれらを読み、書き込みながら遊んでいる姿は、想像するだけで悲しくなります。

子どもを持つ親には、携帯電話をゲーム機か何かのように簡単に渡してしまうのだけはやめてほしいと伝えたいですね。インターネットにつながれた携帯電話は、コンピュータの端末にも等しい力を持っています。自由自在に、広い世界とつながることが可能で、そこには子どもたちが遊ぶにはあまりに危険な場所も数多く潜んでいます。被害者になるだけでなく、ときには加害者になってしまう場合もあります。そうした事例を具体的に示しながら、一人でも多くの親たちに、子どもたちを守っていくにはどうすればよいか、今本当に、子どもに必要な物かどうかを考えてもらい、それが私たちのやるべきことなのだと思います。

」

子どもの身近には相談にのってくれる大人が必要



松本由美子

群馬県子どもセーフネット
インストラクター
主婦

高崎市在住。自分の息子に携帯電話を持たせたことをきっかけに、自分も携帯電話やインターネットについて理解しておきたいと考えて、昨年、インストラクター養成講座に参加。その利便性の裏に潜む問題の大きさを知り、インストラクターとして活動を続ける。

「

知らなかった方がよかったと思うくらい、インターネットの世界のあまりにもひどい部分を見てしまい、ショックの連続で落ち込んでしまうこともありました。それでも、子どもに携帯電話を持たせてしまったので、とにかく自分も勉強して、どのように向き合っていけばよいかを考え、子どもに伝えていきたいと活動に参加しました。

私たちのような保護者世代は、子どものころに携帯電話もインターネットも使っていない人がほとんどで、知らないことや分からないことが多すぎます。そうした人たちにも分かるように、自分の学んだことをしっかり伝えていきたいと思っています。

調査活動を行う中で衝撃的だったのは、インターネットの世界では、いとも簡単にだまされてしまう、罠にかかってしまうということです。例えばアダルトサイトで「18歳以上」をクリックしただけで、「会員登録完了、4万円払ってください」となどという請求が来たり、「ゲーム遊び放題」に登録したら、それが出会い系サイトで、毎日毎日メールが送られてきたり。また、誰ともわからない相手に優しくされ、気にかけてもらって、つい気を許し自己開示してしまう。そうした落とし穴が本当にたくさんあります。

大切だと感じているのは、子どもの周りにしっかりと相談できる大人がいるかどうかということです。携帯電話にのめり込んで、依存してしまう子どももいますし、インターネットでトラブルに巻き込まれてしまう子どももいます。そうしたときに、子どもたちが気軽に相談できる大人が身近にいれば、大きな問題にならずに済むはずです。私たち市民インストラクターの話を聞いてくださる人たちには、そうしたことも伝えたいと思っています。

」

取材を終えて

今回お話をうかがった市民インストラクターのみなさんは、決してインターネットの達人でもなければ、情報産業に精通しているわけではない。子どもの健やかな成長を願うごく普通の家庭人だ。だからこそ、子どもの身近に潜む携帯電話やインターネットの危険やその恐ろしさがよく見えるに違いない。そして、そんな親の視点で語りかける彼らの言葉には、聞く者を納得させる説得力に満ちている。